

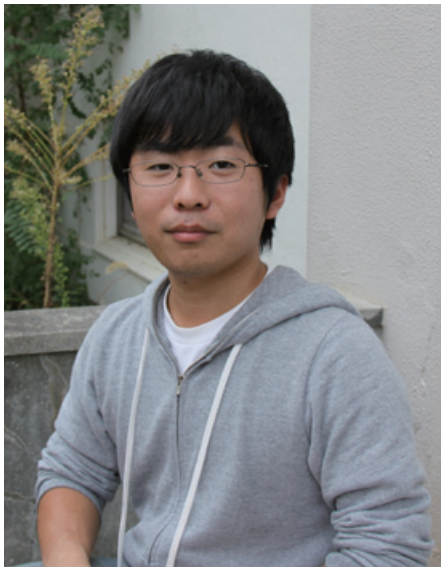


関西大・3年

藤原 醇平 さん

スイング・ジャズ・クルーズ
実行委員長

8100人の老若男女を集めた「スイング・ジャズ・クルーズ」。学生がつくる一大ジャズイベントだ。その実行委員をまとめたのが自身も演奏者である藤原醇平さん。イベントの規模が拡大するなか、さまざまな苦勞があった。



10月2日、神戸のハーバーランドはジャズ一色に染まった。10のステージに出演者は355人。学生による手作りの大音楽会「スイング・ジャズ・クルーズ(SJC)」だ。それを統括するのが、藤原醇平さん(関大・3年)。昨年のSJCの帰りの道で前委員長から任命されて以来、実行委員長として奔走してきた。「去年と同じことをしても面白くない。どんどん新しいことをやって進化していきたい」。4回目となる今年はメリケンパークにダンシングジャズステージを新設するなど、昨年より規模を拡大。洋菓子店とのコラボスイーツなど新企画も行った。

JAZZ SMILE

実行委員はさまざまな大学から集まる29人。それぞれ当日ステージに立つ演奏者でもある。演奏の練習と運営の両立は困難を極めた。会議にスカイプや、オンライン上でドキュメントを共同編集できるサービスを使うなど工夫をこらして準備を進めた。

本番が迫る9月半ば、メリケンリストに一通のメールが流れた。「もっとこっちゃん手伝ってほしい」。新設のメリケンパーク担当のあるメンバーからだ。例年より規模を拡大したゆえのきしみ。メンバーは各々が担当の仕事に集中するあまり周りが見えなくなっていることに気付いた。このメールを機に、全体の統一感がうまれた。

「運営の合間を縫って練習した」。藤原さんもまた一演奏者だ。ドラムを始めたのは9歳のころ。高校3年生のとき、当時の師匠からジャズを勧められた。始めてみると、落ち着いた喫茶店で流れるオシャレな音楽と言うイメージは変わった。はやいテンポ、



にぎやかなビート、オシャレの一言では片付かないジャズの魅力にのめり込んでいった。

当日は昨年より2000人多い8100人が来場し、大成功に終わった。今年のテーマは「ジャズ・スマイル」。藤原さんは閉会式でこう言った。「3月の東日本大震災をうけて日本に自粛ムードが広がった。しかし悲しい状況でこそ、いい音楽を聴いて笑顔になれたら」。想いは音に乗る、観客を包み込んだ。

(聞き手 田中郁考)

UNN関西学生報道連盟

配信・発行 (C) UNN 関西学生報道連盟 (公式HP) <http://www.unn-news.com/>

■共同編集室 〒532-0011 大阪市淀川区西中島4-2-24 ダイニホンビル4F

(TEL) 06-6307-1315 (FAX) 06-6829-6353 (MAIL) info@unn-news.com

FOCUSは

神戸大学ニュースネット委員会
同志社大学 PRESS 編集部
NEWS 立命通信社
関学新月通信社
大阪大学 POST 編集部

関西大学タイムス編集部
神戸女学院大学 K.C.Press 編集部
京都女子大学藤花通信編集部
京都大学 EXPRESS 編集部

の共同編集による週刊フリーペーパーです